

令和5年度  
学校関係者評価委員会議事録

1. 開催日時 令和5年6月10日(土) 午後2時57分～

2. 開催場所 中央医療技術専門学校 3号館4階 会議室  
東京都葛飾区立石3丁目5番12号

3. 学校関係者評価委員定数 6名

4. 出席者 学校関係者評価委員

委員長 神田 吉也 : 卒業生

(アサヒメデイカル株式会社顧問)

副委員長 伊丹 重貴 : 学校運営に関する有識者

(株式会社トキワ薬品化工取締役社長)

委員 柳田 智 : 関連教育機関関係者

(つくば国際大学医療保健学部診療放射線学科教授)

平野 雄二 : 臨床実習施設関係者

(筑波大学附属病院放射線部診療放射線技師長)

菅 勝幸 : 医療機器製造・販売関係者

(株式会社六涛東京営業所)

福田 昌弘 : 在校生保護者

(医療法人財団岩井医療財団岩井整形外科内科病院

検査部放射線技術科課長兼技師長)

内部評価委員会

委員長 横田 浩 (学校長)

委員 小川 雅之 (教務部長)

加藤 広宣 (教務部参与)

中島 正弘 (教務課長)

河合 繁 (学生課長)

池田 信昭 (学校総務課長: 事務長)

宮田 道夫 (法人事務局長)

岸 千春 (法人事務局次長: 財務担当)

法人事務局

森重 美三男 (理事長)

5. 議 案

1. 令和4年度学校自己評価報告について

2. その他

6. 議事録署名人 伊丹 重貴 福田 昌弘

7. 配布資料
1. 令和4年度 学校自己評価報告書
  2. 応募数と入学者推移
  3. 入学から卒業・国家試験合格の推移
  4. 国家試験合格率
  5. 自己評価ポイント比較率
  6. 事業活動収支計算書
  7. 第28期事業報告書

議事に入る前に、森重理事長から1年間の報告があった。

**【理事長報告要旨】**

本校で学校評価が始まったのは、国の高等教育無償化による、就学支援制度の給付型奨学金が始まった4年前である。昨年度本校では、この制度を37名の生徒が利用し、総額で1,500万円を超える給付を受けており就学支援の中核となっている。

この4年間はコロナ対策を最優先して感染予防に努めてきた。5月に感染症の分類が5類に移行し予防策も緩和されてはいるが、本校は医療人を養成する学校であり、しばらくは市内の一般病院と同様の感染対策を維持していく。おかげ様で今日まで、本校ではクラスターが発生していないことは、現場の教職員が一丸となってコロナ感染予防に対処してくれた努力の賜物と心から敬意を表するところである。

学校の運営等については、荒川校を分離したことに伴い、就業規則及び就業規則附則規程等を現状に則したものに整備した。

学校への施策については、高等教育無償化の制度を取り入れるに当たり、ファカルティ・ディベロップメント（教員が授業の内容や方法を改善し、向上させるために実施する組織的な取り組み。）の具体的な一つとして、昨年「教員相互の授業参観」を実施している。

広報活動として、全国高等学校野球選手権の千葉県予選のテレビ放送のCM枠を購入した。

大学用地について、昨年報告した千葉県佐倉市については断念せざるを得ない状況になり、現在は神奈川県横須賀市に候補地があるので、交渉を進めている。

今日は、令和4年度学校自己評価の結果が出ましたので、皆様にお集まりいただき評価をいただきたいと存じます。よろしく願い致します。との挨拶があった。

その後、委員会成立事項報告を求めた。

学校関係者評価委員会成立事項報告（委員会進行の宮田道夫法人事務局長）

本日の委員会は、委員6名が全員出席しており、学校関係者評価委員会規程第7条1項に定める出席委員数を満たしており学校関係者評価委員会が成立することを報告する。規程第8条により、委員以外の者に出席を求め意見を聞くということで、本日は学校内部評価委員8名が同席をする。また、規程第10条には、委員会の事務は、本校の教務部において処理するとあるが、本日は、法人事務局で議事録を作成するのでご了承を願う。なお、議事録作成上、本日委員会の録音を行う。

との報告があった後、神田委員長に議事の進行を依頼した。

神田委員長は、議事録署名人に、伊丹重貴氏と福田昌弘氏を指名し、両名が承諾し議事に入った。議長は、令和4年度学校自己評価報告書と添付資料（応募数と入学者推移、入学から卒業・国家試験合格の推移、国家試験合格率、自己評価ポイント比較表、事業活動収支計算書）の説明を内部評価委員会に求めた。

横田内部評価委員長（学校長）より、令和4年度学校自己評価報告書の概要説明に続いて評価項目ごとに以下のとおり内部評価委員から説明があった。

- |    |           |                    |
|----|-----------|--------------------|
| 1  | 教育理念・教育目標 | 横田 浩（学校長）          |
| 2  | 学校運営      | 宮田 道夫（法人事務局長）      |
| 3  | 教育活動      | 中島 正弘（教務課長）        |
| 4  | 学修成果      | 中島 正弘（教務課長）、       |
| 5  | 学生支援      | 河合 繁（学生課長）         |
| 6  | 教育環境      | 池田 信昭（学校総務課長：事務長）  |
| 7  | 学生募集と受け入れ | 河合 繁（学生課長）         |
| 8  | 財務        | 岸 千春（法人事務局次長：財務担当） |
| 9  | 法例等の遵守    | 小川 雅之（教務部長）        |
| 10 | 社会貢献      | 小川 雅之（教務部長）        |

《 10分休憩 16：05から16：15 》

#### 【質疑応答】

学校関係者評価委員は各方面から委員をお願いしております。その辺を踏まえまして、只今の令和4年度学校自己評価報告についてご意見、ご質問を受けたいと思います。（神田）

（意見）筑波大学では今年度は6校から実習生を受け入れております。臨床実習に臨む姿勢としては、勉学が達者ということで優秀・学校のレベルが高いから優秀というのではなく、当校の学校自己評価報告書の教育理念にも載っているが「現場で活躍できる職業人の育成」がまさに臨床実習の目的であろうと考えています。

また、現場で一緒に働く際も、協調性があり、周りを見渡す能力にたけている人材を求めていますので、この教育理念の継続とさらなる充実を是非お願い致します。（平野）

（質）NOVAの外国人講師を招いて、英会話の授業をしているが、通常の英会話なのか、医療に特化した英会話なのか。（平野）

（答）医学用のテキストを用いて授業をしている。普通にNOVAに通うのとは違い、医学に特化した英会話である。授業中は、日本語は使わず、英語のみで行っている。（横田）

（質）OSCEの実施時期は実習前ですか、それとも実習後ですか。（平野）

（答）実習前に行っています。今年度は、夜間部は夏休みに臨床実習があります。昼間部2年生は冬にかけて臨床実習が予定されていますので、実習前に患者との対応、撮影時の患者との会話等について、極力現場に近い形でOSCEを行っています。（中島）

（質）OSCEを行う領域お教えてください。（平野）

- (答) 一般撮影検査とCT検査時のOSCEを実施しています。(中島)
- (質) リメディアル教育の実施時期は入学前なのか、入学後なのか。(柳田)
- (答) 入学が決まった時点で、入学式前に郵送で数学等の基礎力調査を実施している。(中島)
- (質) 入試科目について、国語がなくなり、現在は数学と生物だが、物理も加えたらどうか。(柳田)
- (答) 以前の入試科目は、数学が必須、理科は物理、化学、生物から1科目選択だったが、生物を選択する受験生が9割程になったことにより、数学と生物になり、現在は数学か生物の選択となっている。入学後のリメディアル教育には物理、化学をとりいれている。動画を自由に利用し勉強できる環境を用意している。(小川)
- (意見) パワーポイント、スライド等を使用して授業をする教員が多い中、1号館の教室の後部にいる学生はスライドの下段が見にくいいため、立ち上がって見ている状態である。今後改善していただきたい。(柳田)
- (質) LGBTについて、学生に対し配慮はしているのか。(柳田)
- (答) 以前、休学後に女性から男性になったという例はあったが、現在は特にしていない。(小川)
- (意見) 実習時の白衣は男性用、女性用が別になっている。リクルートスーツも男性用と女性用があり、男性用しか着られないなどという事例もあるので、今後、学校として検討していくべきではないかと思う。(柳田)
- (答) スライドの件についてであるが、毎年実施している学生のアンケート調査の昨年度の結果でも、先生の声が聞き取り難い、とかスライドが見難い意見があり、昨年からピンマイクを各教室に備え改善策を講じている。ご指摘のスクリーンについては来年度抜本的に改善する方向で検討している。(森重)
- (質) 新入生の定員を満たしていないが、具体的な対策はあるのか。(菅)
- (答) 最近の傾向として大学に進学してしまう学生が増えている。昨年からは始めたことではあるが、本校でも指定校推薦制度を導入し、昨年は100校ほどの高校を指定して、7名が入学した。今年度は170校程度を指定校とし指定校推薦入学者の増加を目指していきたい。(横田)
- (意見) 千葉テレビへCM広告をしたとの報告があったが、経費の問題もあるが、CMだけでなく、様々なPRを行っていただきたい。(菅)
- (答) 学校説明会に来ていただいた方には、ユーチューブ、ホームページを見ていただくよう案内をしているが、まだ本校に来られていない方にどのような広報活動していくのかが、今後の課題である。その状況下で、パンフレット、配布物等にQRコードを載せ、本校のホームページにアクセスできるようにした。  
またホームページには、本校のオープンキャンパスの風景動画、教員紹介には写真も掲載した。今後も引き続き検討し、実施していきたい。(河合)
- (意見) 在校生の保護者としての意見であるが、CBTのリモート化は、わざわざ登校しなくても、自宅で国家試験の問題を解くことができ、また結果を分析できるので素晴らしい改善だと思う。(福田)
- (質) 募集人員が少なくなっているのは、少子化による受験生の減少なのか。他校でも減少しているのか。(福田)

(答) 専門学校の出募者数は皆減少しているようであるが、本校は横ばいなので、いい方だと考えている。(横田)

(意見) 不適切な発言かも知れないが、受験生の取り合いになってしまう。そのなかで他校との差別化や、わが校の特徴を明確にしていく必要があると思うが。(福田)

(意見) 企業経営の立場での話になってしまうが、少子化もあり唯一の収入源である学生の減少傾向はこの先も続くことは安易に想像できる。先ほど、専門学校の出募者数が他校では減っているのに当校は横ばいであるとの答弁があったが、当校が横ばいでいる優位性は何なのか、どんな優位性が具体的にあるのかを詳しく分析する必要があるのではないか。その結果をもとに広告のありかたを考えるべきではないかと思う。

また、収入減少に加えて昨今のように物価上昇により支出が増えてくると、広報活動費の圧縮も考えなければならない状況も到来すると思われ、より効率の良い方法を今から考えるべきであろう。

幸いにも、昨年行ったホームページの刷新などが人を集める効果のひとつになっているのであれば、当然ホームページの効果を評価しなければならない。具体的にはホームページへの滞在時間の分析やページへの来場者数などを把握して優位な点を伸ばしていくべきであろう。

一時的には経費が上がっていくこともあるが、年度計画と将来を見据えた中・長期計画を立てて実行することが重要であるとする。(伊丹)

(意見) 理事長として確固たる経営基盤を築くには、まず定員の確保が重要であると考えています。入学志願者数が多ければ当然のことながら優秀な学生を新入生として確保でき、その結果国家試験の合格率は高くなることから、当然優秀な学生が入学するのが望ましいことは間違いありません。

しかし、一般入試が4回あり、前3回の合格者から入学辞退者が多く出ていることと、3月に行う第4回目の最後の受験生に優秀な学生が多い傾向があります。

そのような中、4回入試の受験者数の予測及び入学者数を想定するのは極めて難しいこととあります。さらに最近の大学志向から合格後の辞退者が増加しています。

令和5年度も出募者数は315名おりましたので、来年も出募者数と入学者の推移(資料①)を見ながら定員確保に努めてまいります。(森重)

(質) 毎年3月の入試で優秀な学生が受験してくる傾向とか、合格後の辞退者が多くなっていることとか、定員確保に苦勞されていることがよく判りました。

優秀な志願者を集める方法として、共通テストでの理科の選択を生物以外の物理・化学を選択した学生は、当校の受験科目に物理・化学がないので、あきらめてしまうことがあるのではないだろうか。(平野)

(答) あまり、物理と化学を選択する受験生は少ないとは思う。問題科目を増やすのは、経費が掛かるのだが、考えてみたいと思う。(横田)

(質) 当校の卒業生として学校が未来永劫の存続を願っている立場で思うことは、現在当校は専門学校であるので、他校との差別化、アピールできるのは国家試験の合格率が重要ではないかと思っている。今回、国家試験の対策として、特化したものなどがあれば教えていただきたい。

(神田)

(答) 国家試験対策にもいろいろある。昼間部・夜間部への対応、現役・留年生への対応など様々である。今後、国家試験の受験者数も問題や留年の期限なども検討する必要があるので総合的に考えていきたい。(横田)

以上の質疑応答の後、神田委員長の要請で、委員以外の学校関係者は退室し、学校関係者評価委員で総評に入った。纏まった総評を、神田委員長より学校側に述べた。

### 【神田委員長総評】

本日、内部評価委員会から報告を受けました。令和4年度もコロナ禍でいろいろな制約があった中で、教職員の努力によって概ね良い運営がされていると判断しました。

委員会での意見は以下の6項目を指摘し総評とします。

- 1、新型コロナの感染対策については、令和元年に国内感染が発生以来、学校内の感染予防に努め、本年5月に第5類に移行されるまで、学内のクラスターを発生させなかったことは、全教職員の感染予防に対する努力の賜物と高く評価致します。
- 2、ファカルティ・ディベロップメントの一環としての教員相互の授業参観を実施していることを評価します。先生方の授業の内容や手法の改善など、教員の質の向上に必ず資するものであり、今後も継続してほしい。
- 3、提出された自己評価について、昨年も指摘していますが、設問3「学習成果」、6「教育環境」などのスコアにここ数年変化が見られない項目があります。毎年検討し改善策を講じていれば点数は変化するものと思いますので、より良くなるように努めていただきたいと思います。
- 4、国家試験の結果は、学校において最も重要な課題であります。報告でも様々な国家試験対策を実施していることが伺えますが、なかなか結果に結びついていないようです。引き続き今後も、しっかりとした対策講じて、合格率向上を目指し努力していきましょう。
- 5、施設、設備の充実について、最新の放射線医療に対応できるように、医療機器、設備の充実は重要なことでもあります。これは予算に関わることでありますが、大学に劣らない設備を期待します。
- 6、広報活動について、新たに、夏の高校野球大会千葉県予選の千葉テレビ放送のCM枠を購入したことは評価します。今後は、診療放射線技師を養成する学校がない県、例えば長野県などのローカル番組を利用し広報活動をしてはどうかと提案致します。ご検討ください。

新しくなったホームページは良くなったと評価致します。今後、インスタグラムやYouTubeなどを使って、学校をPR出来ればさらに良くなると思いますのでご検討ください。

今後も学校発展の為に努力していただきたいと思ひます


委員長は、他に質疑の有無を諮ったが特になく、本日の学校関係者評価委員会を終了した旨を述べ午後5時15分に閉会した。

以 上

本議事録記載事項について、正確であることを証するため委員長及び議事録署名人各署名押印する。

令和5年6月10日

委員長 氏名 神田 吉也 

議事録署名人 氏名 伊丹 重貴 

議事録署名人 氏名 福田 昌弘 

以上